

浮函（ポンツーン）の引揚げ

1. 準備工

引揚げ準備工の歩掛りは下記を標準とする。

(1 函当り)

名 称	規 格	単位	浮 函 の 重 量			摘 要
			100～200t	201～300t	301～400t	
潜水土船運転	D180PS 3～5t吊	日	3.0	6.0	6.0	就8H
台 船 運 転	鋼D100t積	日	1.0	2.0	2.0	就8H
引 船 運 転	鋼D300PS	日	1.0	2.0	2.0	運2H／就8H
ハッチカバー損料		式	1	1.0	1.0	必要に応じて計上する
普通作業員		人	5.0	10.0	10.0	
雑 材 料		式	1	1	1	

備考 1. ハッチカバー損料は下記材料単価の50%を計上する。

鉄板	$t = 12m/m \cdot \cdot \cdot$ 径は、マンホールの径 $\phi 600 \sim 1,000m/m$ とする。
ガスパイプ	$\phi 46m/m \cdot \cdot \cdot$ 水深により決定する。
ゴムパッキン	$t = 10m/m \cdot \cdot \cdot$ マンホール面積分を計上する。
ボルト	$\phi 16m/m l = 60cm$
溶接工	1.0人
普通作業員	0.5人
雑 材 料	1式

製作費として計上する

2. 引揚工

本歩掛りは、水中に没している浮函を水面上まで浮上させ、破損箇所を応急補修して、排水ポンプで排水し浮かす作業である。

海底に埋没している場合は、別途床堀を計上すること。

引揚げ歩掛りは下記を標準とする。

(1 函当り)

名 称	規 格	単位	浮 函 の 重 量			摘 要
			100～200t	201～300t	301～400t	
起重機船運転	旋回式鋼D100t吊	日	2.0	—	—	運6H／就8H
	固定式鋼D200t吊	日	—	4.0	6.0	
引 船 運 転	鋼D600PS	日	2.0	4.0	6.0	運2H／就8H
台 船 運 転	鋼D100t積	日	2.0	4.0	6.0	就8H
潜水土船運転	D180PS 3～5t吊	日	6.0	12.0	18.0	就8H
揚錨船運転	鋼D3t吊	日	2.0	4.0	6.0	運2H／就8H
排水ポンプ運転		日				排水容量により運転日数を算出する
発動発電機運転		日				排水ポンプの規格台数より求める
普通作業員		人	16.0	32.0	42.0	
雑 材 料		式	1	1	1	

3. チェーン水中切断及び引揚げ

チェーンを水中切断し、引揚げる歩掛りは下記を標準とする。

(1函当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
クレーン付台船運転	35t～40t 吊台船300t積	日	1.0	運6H／就8H
引 船 運 転	鋼D300PS	日	1.0	運6H／就8H
台 船 運 転	鋼D100t積	日	1.0	就8H
潜 水 士 船 運 転	D180PS 3～5t吊	日	1.0	就8H
溶 接 機 運 転	D300A・海上現場	日	1.0	
普 通 作 業 員		人	3.0	
雜 材 料		%	5.0	

注) 1. 1函当たりとは、碇けいチェーン(4本)及び補助チェーン(落橋防止チェーン含む)をいう。

2. 小規模工事(維持修繕工事)等により、切断箇所が4箇所以下の場合は、本歩掛りの1/2とする。

4. チェーン水中切断

チェーンの水中での切断歩掛りは、下記を標準とする。

(10ヶ所当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
クレーン付台船運転	35t～40t 吊台船300t積	日	1.0	運6H／就8H
引 船 運 転	鋼D300PS	日	1.0	運6H／就8H
潜 水 士 船 運 転	D180PS 3～5t吊	日	1.0	就8H
溶 接 機 運 転	D300A・海上現場	日	1.0	就8H
普 通 作 業 員		人	3.0	
雜 材 料		式		

注) 1. 小規模工事(維持修繕工事)等により、切断箇所が4箇所以下の場合は、本歩掛りの1/2とする。

5. チェーン陸上切断

チェーンの陸上での切断歩掛りは、下記を標準とする。

(20ヶ所当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
溶 接 機 運 転	D300A・陸上現場	日	1.0	
溶 接 工		人	1.0	
普 通 作 業 員		人	1.0	
雜 材 料		%	3.0	